

## 平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼西高等学校

種別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
 中学校     中高一貫教育     高等学校  
 教員養成     技術/職業教育  
 特別支援学校     その他 (                    )

所在地 〒 988 - 0044  
宮城県気仙沼市赤岩牧沢 155-1

E-mail [chief@knisi-h.myswan.ne.jp](mailto:chief@knisi-h.myswan.ne.jp)

Website <http://www.knisi-h.myswan.ne.jp>

児童生徒数 男子 93 名    女子 244 名    合計 337 名  
児童・生徒の年齢 16歳～18歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 福祉、地域交流 ）

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容

テーマ：東日本大震災以降のE S D教育事業を復活させる取り組み ～理科巡検の実施～

#### 1 本校のE S Dでめざすもの

##### (1) E S Dのねらい

理科行事や福祉施設との交流活動などの実践をとおして、自然環境や福祉、地域との関わりについて学ぶ。

##### (2) E S Dで育てたい資質・能力

東日本大震災により地震や津波の被害を受けて自然災害の怖さが強調されているが、本来気仙沼は自然と人間が上手に向かい合って共存し、発展してきた町である。改めて自然を見つめてその成り立ちや偉大さを科学的にとらえることができる視点をもった生徒を育みたい。

また、本校の福祉教育に関するカリキュラムやキャリア教育の成果を生かし、地域社会との交流をとおして協調性や共生など、人としての基本的な生きる力を育みたい。

#### 2 今年度のE S Dの概要

##### (1) 実践の概要

地域にある断層や褶曲などを観察させ、「自然の教材」「自然災害」に目を向けさせた。

また、天体観測はこれまでの形態を踏襲し実施した（ただし、予定日は天候不順により望遠鏡による観測は中止し、別日に実施した）。

さらに、本校の福祉類型で地域の福祉施設や気仙沼支援学校などの交流活動を行い、部活動・生徒会執行部で様々なボランティア活動も行った。

平成27年度にE S D実践したプログラム

#### I 理科巡検 ～三陸ジオパーク（大船渡・唐桑）を巡検する～

日時：平成27年7月15日（水）、16日（木）、17日（金）

方面：大船渡市立博物館およびその周辺、唐桑半島ビジターセンター、御崎遊歩道

対象：本校1年生全員（一組ずつ三日に分け実施）

内容：1) 大船渡市立博物館の展示物見学および周辺環境の植物や地形を見学

①館内見学の際に学芸員から解説を受ける

②化石や堆積物を見学し三陸および日本の誕生の歴史を考える

2) 唐桑半島ビジターセンターの展示物見学および周辺環境の植物群生や地形を見学

①東日本大震災の写真見学

②津波発生メカニズムを考える

③地層の見方



海岸にある「褶曲」を説明する教員

また、生徒の足元には、溶岩の通ったとされる「岩脈」がある。

さらに、この海岸には断層や層内褶曲などが多くみられる。

- Ⅱ 天体観測をとおして気仙沼の自然を考える  
 ～スペースウォッチングを通じて地域を理解する～  
 日時：平成27年12月3日（水）  
 会場：宮城県気仙沼西高等学校（化学室、屋上天体ドーム）  
 対象：本校3学年の希望者  
 内容：1）スライド上映、星空解説  
     ①冬の星座（スライド）  
     ②星空解説（スライド）  
     ③観測天体についての説明  
 2）天体観測（屋上天体ドーム） →曇天により中止  
     （1月の中旬に希望者対象でおこなった。）

Ⅲ 福祉教育・・・地元福祉施設との交流

- 1）交流会等の実施（福祉類型）  
     ①デイサービスセンターとの交流会（本校会場）  
     ②気仙沼支援学校との交流会（6回程度）  
     ③知的障がい者授産施設見学  
 2）ボランティア活動（社会福祉部ほか）  
     ①児童・障がい者・高齢者施設でのボランティア活動  
     ②各施設の行事等でのレクリエーションの企画・実施  
     ③施設との年間を通しての交流  
     ④生徒会の学校周辺地域の清掃活動



(2) 今年度、特に工夫・改善したこと

東日本大震災後、野外活動型のプログラム実施に当たって危機管理の体制を十分に整えることとした。観察地は海岸地帯が主であるため、環境変化を現地で調査し、安全面で支障のないことを確かめてから、計画にあたった。

行事实施の決定後は、内容面で理科巡検は「海と人の関わり」が観点の一つとなっているため、震災を体験した生徒たちの心理的負担を考慮した。

実施に際してそれらの諸問題を克服できるように計画から実施まで、細部にわたり多様な角度から検討し運営にあたった。また、実施当日で降雨があったため、岩場の巡検を短時間にし、館内見学や植物の観察により多くの時間をあてるなど生徒の怪我・事故防止に努めた。

3 今後 ESD の方向性

～主体的・探求的・協働的な学習の充実、アクティブ・ラーニングの推進等～

(1) ねらい、および学習内容（活動プログラム）の視点から

教育課程における確固な位置付けにより、学習内容の発展と向上が期待できると思われる。

(2) 指導計画、および指導体制、指導方法の視点から

関係諸機関の尽力により、ESDの浸透は目に見えて実感できる。その反面、理解不足または興味関心が希薄な教員も相当数いることも事実であり、指導計画・指導体制・指導方法の発展と向上の足踏みしている原因になっていると思われる。

(3) 育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容、評価の視点から

本校を例に挙げれば、校内だけでなく校外との係わりにより、目に見える成果が得られてきたと思われる。学校現場だけでなく、自治体を巻き込んで、地域の子供たちをどのように育てたいのかという共通理解の場が必要であると思われる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）